

擬似漢字系文字 4 (水文字と僂僂文字)

遼、西夏、金によって創製された文字は正式な国字であった。ここに紹介する擬似漢字系文字は民間で起こった非公式の文字である。

■水(スイ)文字

これは中国貴州省水族の表意文字であり祈祷師が使用する。明代から現代までの資料がある。総字数は 1,200 余り。異体字を除くと 480 ほどになる。象形性の強い独特の文字の中に、漢字の天地や左右を逆にしたものなど、漢字を改変した漢字系文字が混じる¹。たとえば象形的な文字には以下のものがある。

- ・「◎」は“地方”を表わす。
- ・「oo」は“眼”を表わす。

漢字に基づく文字には以下のものがある。

- ・「▽」は漢字の「甲」に等しい。
- ・「ㄣ」は漢字の「子」に等しい。
- ・「ㄩ」は漢字の「五」に等しい。

文字は方形で縦に右から左に向かって書く点、意味の切れ目に対応した分ち書きがない点は漢字の文字組織を彷彿とさせるが、漢字系ではない文字を多く含む。

■僂僂(リス)文字

これは中国雲南省僂僂族の文字である。1920 年代の初期、維西県の僂僂族農民の汪忍波によって考案され、現在でも一定数の使用人口を持つという。字数は 900 余り。音節を単位とする表音文字、すなわち音節文字であるという。独特の文字の中に、漢字や他の民族文字から字形のみを借りた文字が混じる²。たとえば、漢字の字形を利用した文字には以下のものがある。

- ・「囚」で僂僂語の“出る”[do]を表わす。
- ・「王」で僂僂語の“3 (数字)”[sa]を表わす。

象形による文字と思しきものには以下のものがある。

- ・「X」の発音は[ɬi]で、“歩く”を表わす。
- ・「𠄎」の発音は[lo]で、“石”を表わす。

文字が方形で縦に書く点、意味の切れ目に対応した分ち書きがない点は漢字と同様であるが、行の方向は漢字と逆で、左から右に向かって進む。この点は次節で述べるソグド系文字と同様である。

〈参考文献(発行年順)〉

¹ 曾曉渝・孫易 2004 参照。なお王国宇 1993 には 127 字につき意味と音が記されており参考になる。

² 木玉璋 1994 参照。

王国宇 1993. 「水族古文字考积」, 『中国民族古文字研究 (第二輯)』天津市:天津古籍出版社, 258-272 頁。

木玉璋 1994. 「僂僂族音節文字造字法特点簡介」, 『民族語文』1994 年第 4 期, 64-67 頁。

曾曉渝・孫易 2004. 「水族文字新探」, 『民族語文』2004 年第 4 期, 12-18 頁。

(文責: 吉池孝一)